

「国際交流ネットワークフェスタ おもてなし JAPAN-IN FUKUCHIYAMA」に参加して

報告者 福島 宏

私と京都府北部地域の方々とのつながりは、2000 年から始まり今年で 14 年目になります。特に毎年 9 月に福知山市の観音寺地区で開催される「ふれあい農園収穫祭」は、夏の終わりと秋の始まりを告げる一大イベントで、私も 10 回近くスタッフとして参加しました。私にとって第二の故郷とも言える福知山市に、2013 年に大きな試練が訪れました。未だ記憶に残る「ドッコイセ福知山花火大会」での露店爆発事故と台風 18 号の水害です。

ガスやキャンプファイヤーなどを扱う「収穫祭」は中止。しかも台風による堤防の決壊で「収穫祭」の開催会場である農園そのものが水没。復旧から復興へ、という気運を高めるためのきっかけが「火と水」で失われたのです。

そんな折、北部地域に多く住んでいる青年海外協力隊の出身者たちが決起して「国際交流ネットワークフェスタ おもてなし JAPAN-IN FUKUCHIYAMA」を開催するとイベント案内が届きました。もちろん参加の連絡を届けました！

イベントが近づくスタッフの役割やイベントのタイムスケジュールが発表され、私の役割は「照明係」に決まりました。イベント会場に照明の専門家から装置の操作説明を受けた後、プログラムの予行演習で操作の実演です。照明は会場全体の雰囲気を決める大役、正直不安でした。

しかし本番が始まると「今はこれ、次はこれ。」と 1 つずつのプログラムを冷静に判断し演出できるようになりました。私以外のスタッフも事前の緊張が良い方向に作用して、積極的に取り組めたのではないかと思います。それは「みんなで取り組んで、みんなで創り上げる」という信頼関係が醸成できているからだと思っています。

照明設備が置かれている二階の部屋から会場を見下ろすと、スタッフと来場者が一体になってイベントを楽しんでいる景色が見えました。イベントの最後を締めくくる「福知山音頭」が始まった時には、照明のスイッチを全て点灯して、私も踊りの輪に飛び込みました。

きっと彼らは試練を乗り越えて、明るく楽しく力強く復活してくれると信じています。

「国際交流ネットワークフェスタ」に参加して

報告者 宮崎 透

3 月 9 日（日）に福知山市で行われた「国際交流ネットワークフェスタ」に参加してきました。このイベントは、毎年福知山市で行われている「国際交流ふれあい農園収穫祭」（夏の終わりに開催されてきた国際交流のお祭り）というイベントの代わりに今年初めて開催されました。昨年、福知山市は、花火大会での事故、台風による水害と立て続けに大きな被害があったため、福知山市で予定されていたイベントのほとんどが中止となってしまいました。「そんな福知山を元気にしたい！」という思いから、JICA や青年海外協力隊 OBOG を中心に、福知山市、福知山市に活動拠点を置く国際交流団体等が企画を行いました。

当日は、福知山市にある厚生会館で民族衣装ファッションショーやフラメンコ、ベリーダンスなどの催し物が行われました。また、会場内には国際交流団体のブースも設けられ、来場者の方々に活動紹介を行っていました。「国際交流ネットワークフェスタ」と銘打ただけあって、会場にはフィリピン人、中国人、インドネシア人等、様々な国籍の方がいらっしゃいました。プログラムの一つであった和太鼓の演奏時には、会場にいた外国人の方々をステージに招き、和太鼓のセッションも行っていました。さらに、会場外では外国人の方々に福知山市を案内するウォーキングラリーも開かれ、福知山城を散策したり、うどんを食べたりと日本の文化に触れてもらいました。

今回初めて京都市を飛び出してこのようなイベントに参加しましたが、福知山市も市民の交流が盛んな地域だという感想を持ちました。普段は京都市ばかりに目が行きがちですが、京都市以外の地域にも目を向け、京都全体が盛り上がれば素晴らしいと思います。